四つ葉学院
ACADEMIC LAB

第18回　小学校英語教育学会（JES）長崎大会

キーワード：外国語活動　道徳との連携　国際理解と異文化学習

日米の小学校における外国語活動と道徳の教科横断的授業の一例

子どもの学習意欲を高める国際理解活動

ワシントン州 ・シアトル 四つ葉学院

info@yotsubagakuin.com

西尾 由香

１．実践の目的

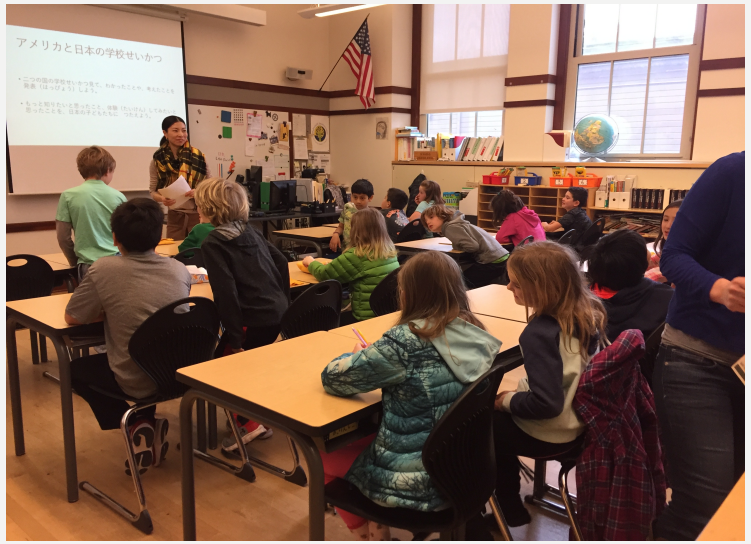
外国語活動と道徳を，教科横断的な視点で捉え，主体的・対話的で深い学びの実現を目指した互恵的授業の実践を，日米の小学生対象に行い，その成果と効果を考察。

- **外国語活動**の目標

  積極的なコミュニケーション力の育成する。

- **道徳**の目標

  外国の人々や文化への関心、日本人としての自覚を持って世界の人々との親善に努める。



２．実践の方法

- アメリカの公立小学校２校４年生５年生，四つ葉学院３年生４年生
  国内の小学校２校４年生５年生を対象

- 道徳と外国語活動に関する同様の授業を実践し、異文化への理解度や
  自国の学習文化の認識度を検証する。
- 両国の児童の異文化への興味や理解に、どのような変容が見られるか、
  外国語活動の授業に関するワークシートや、振り返りカードの記述や、
  児童の言動を記録した映像を分析し、その変容の調査する。

子ども主体の学習活動

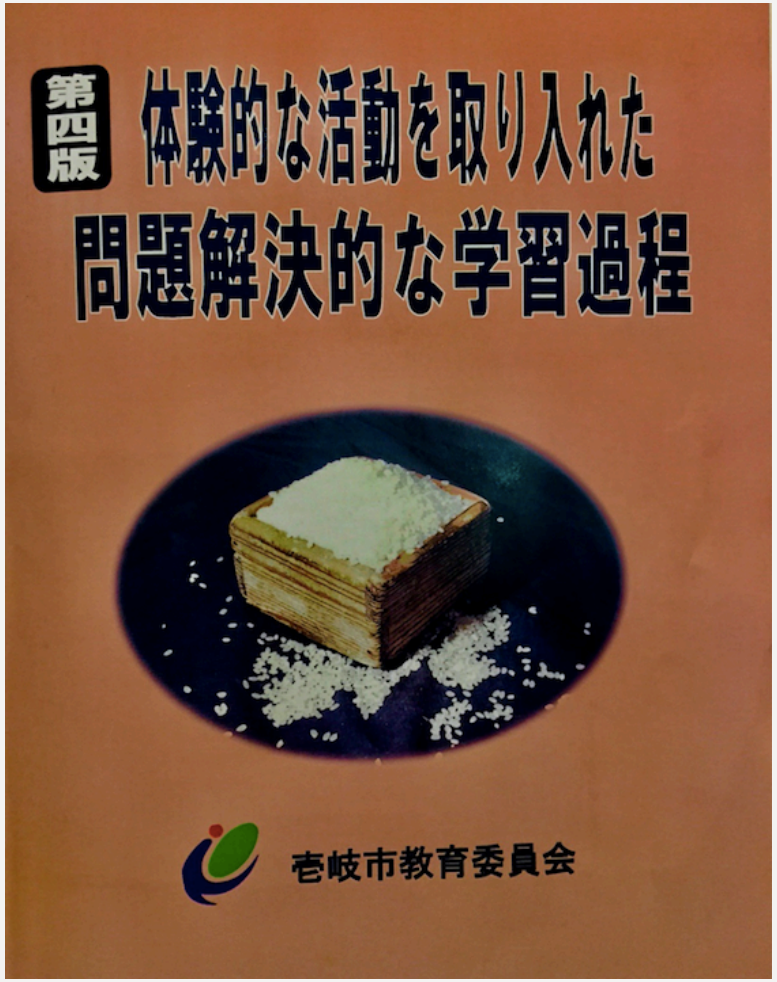
四つ葉学院
ACADEMIC LAB

自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する力

子どもを主体とした授業を実践する

長崎壱岐市教育委員会
問題解決的な学習過程

をモデルに授業を構成。



四つ葉学院 ACADEMIC LAB

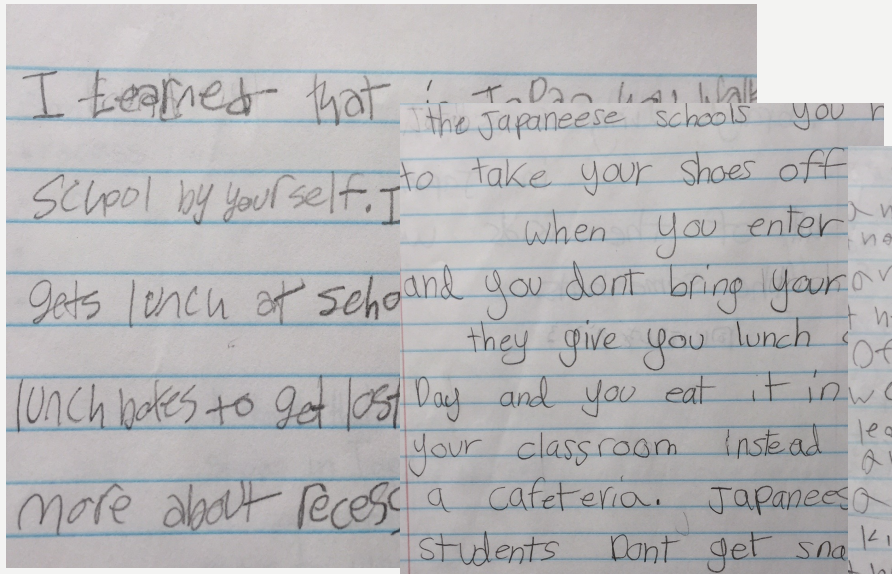
学習活動の構成

子ども主体の学習

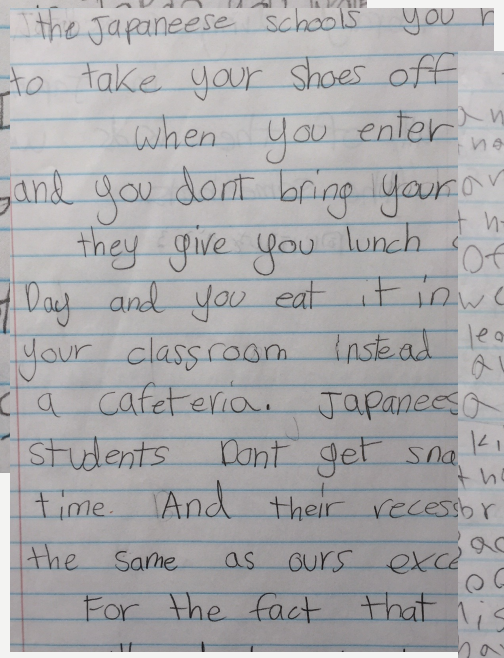
「自ら課題を見つける」「一人集中して考え意見をまとめる」「自ら解決する」

→　「学び方」を身につける

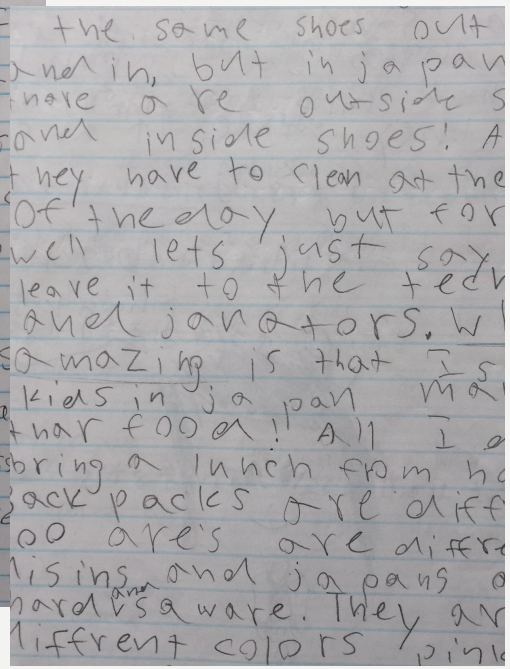
学習過程	学習活動
つかむ	学習問題・課題などの提示をもとに課題意識をもち、問題の認識を深める。 自分なりの課題を把握し、学級全体の課題作りに備えられるように 「考えて書く」時間を確保する。
しらべる	提示された資料の内容を参考に、考えを整理しながら、ノートやワークシートに気付いた事柄を書き込む。
練り上げる ❶	自力解決した多様な考えを発表し、相互に検討する。
練り上げる ❷	友達の学習の成果や意見交換に触れ、課題解決のための新たな着眼点や見通しの方法を学ぶ。
振りかえる	これまでの自分自身の経験や価値に対する考え方などを振り返る。 自分の変容を自己評価し、文章にまとめる。



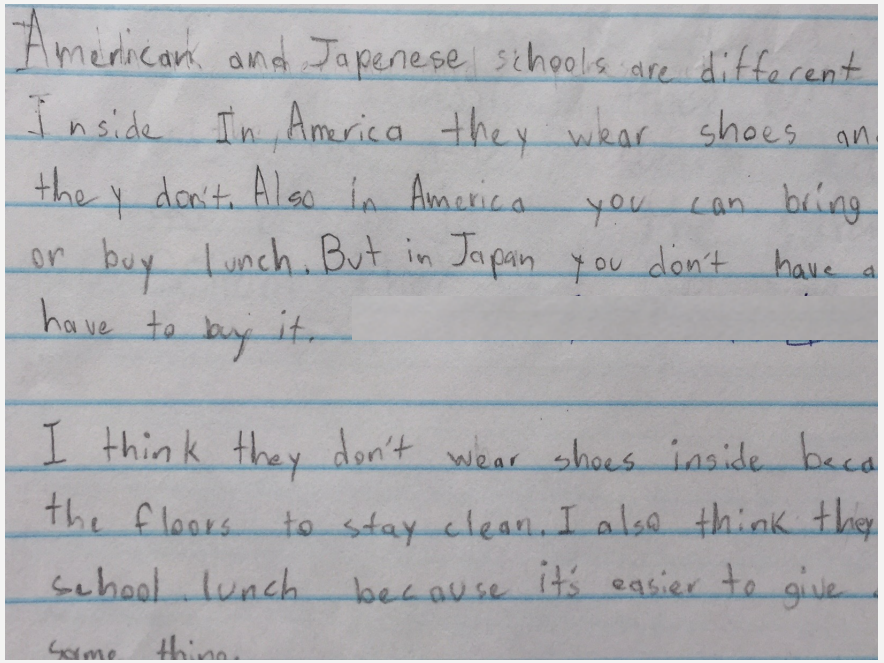
I learned that
school by yourself. I
gets lunch at seho
lunch bokes to get lost
more about recess



the Japaneese schools you
to take your shoes off
when you enter
and you dont bring your
they give you lunch
Day and you eat it in
your classroom instead
a cafeteria. Japanees
students Dont get sna
time. And their recess
the same as ours exca
For the fact that

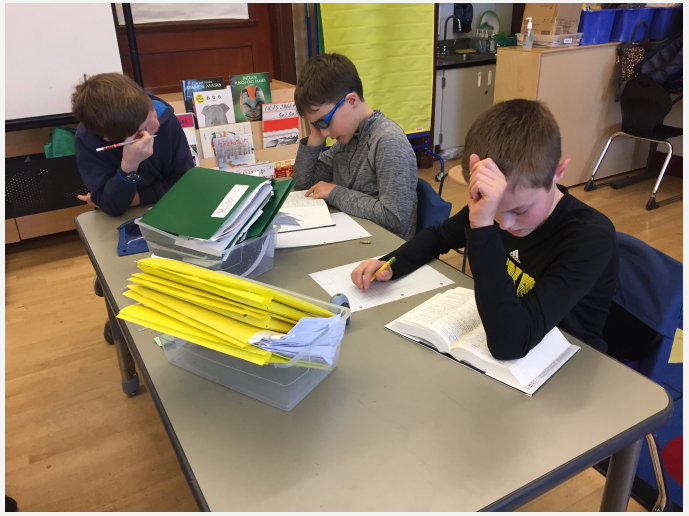


the same shoes out
in, but in japan
are outside s
inside shoes! A
they have to clean at the
of the day but for
well lets just say
leave it to the tech
and janators. W
amazing is that I s
kids in japan ma
thar food! All I
bring a lunch from h
back packs are diff
oo are's are differ
lisins and japans
hard ware. They ar
diffrent colors pink



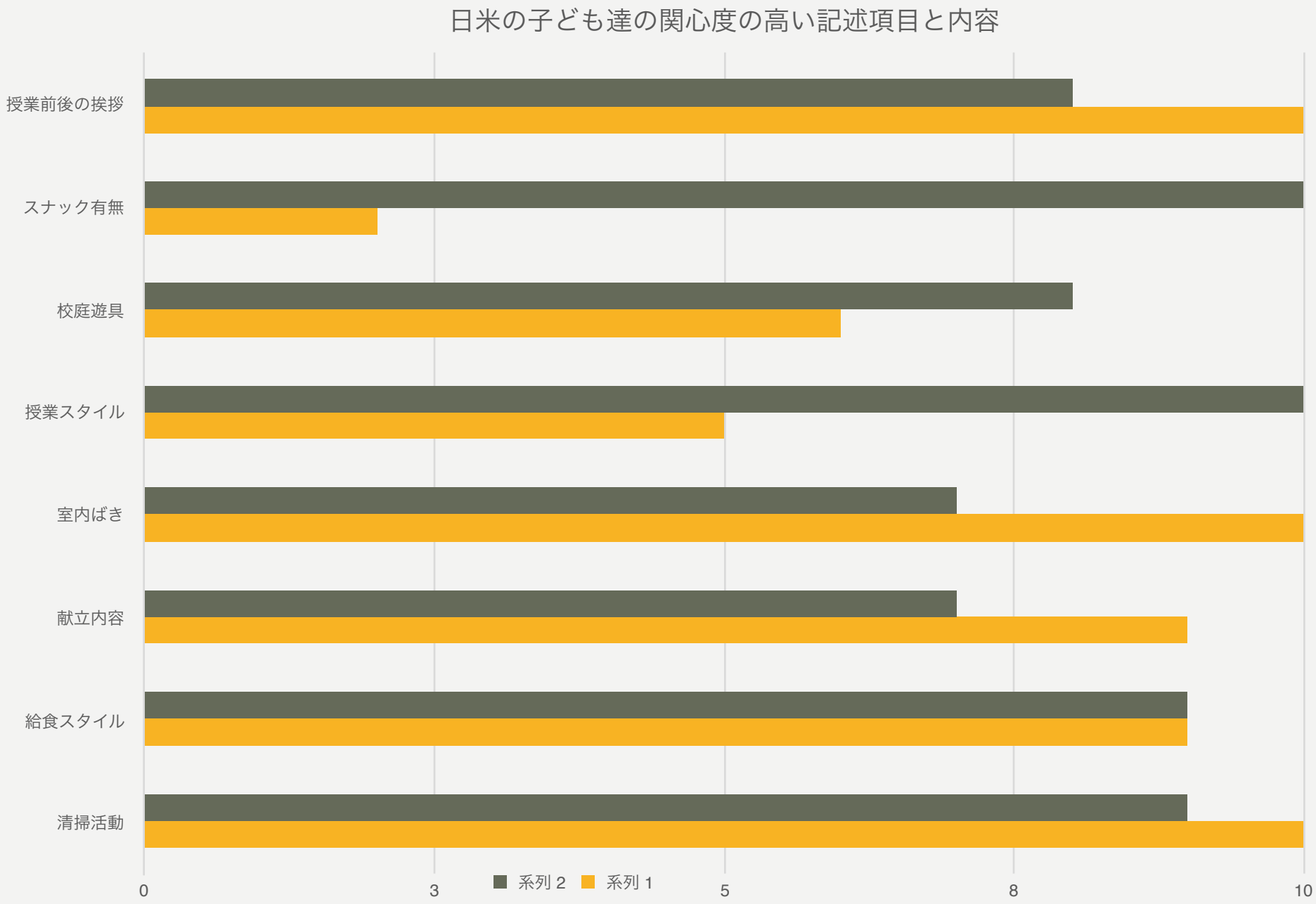
American and Japenese schools are different
Inside In America they wear shoes an
they don't. Also in America you can bring
or buy lunch. But in Japan you don't have a
have to buy it.

I think they don't wear shoes inside beca
the floors to stay clean. I also think they
school lunch because it's easier to give
same thing.



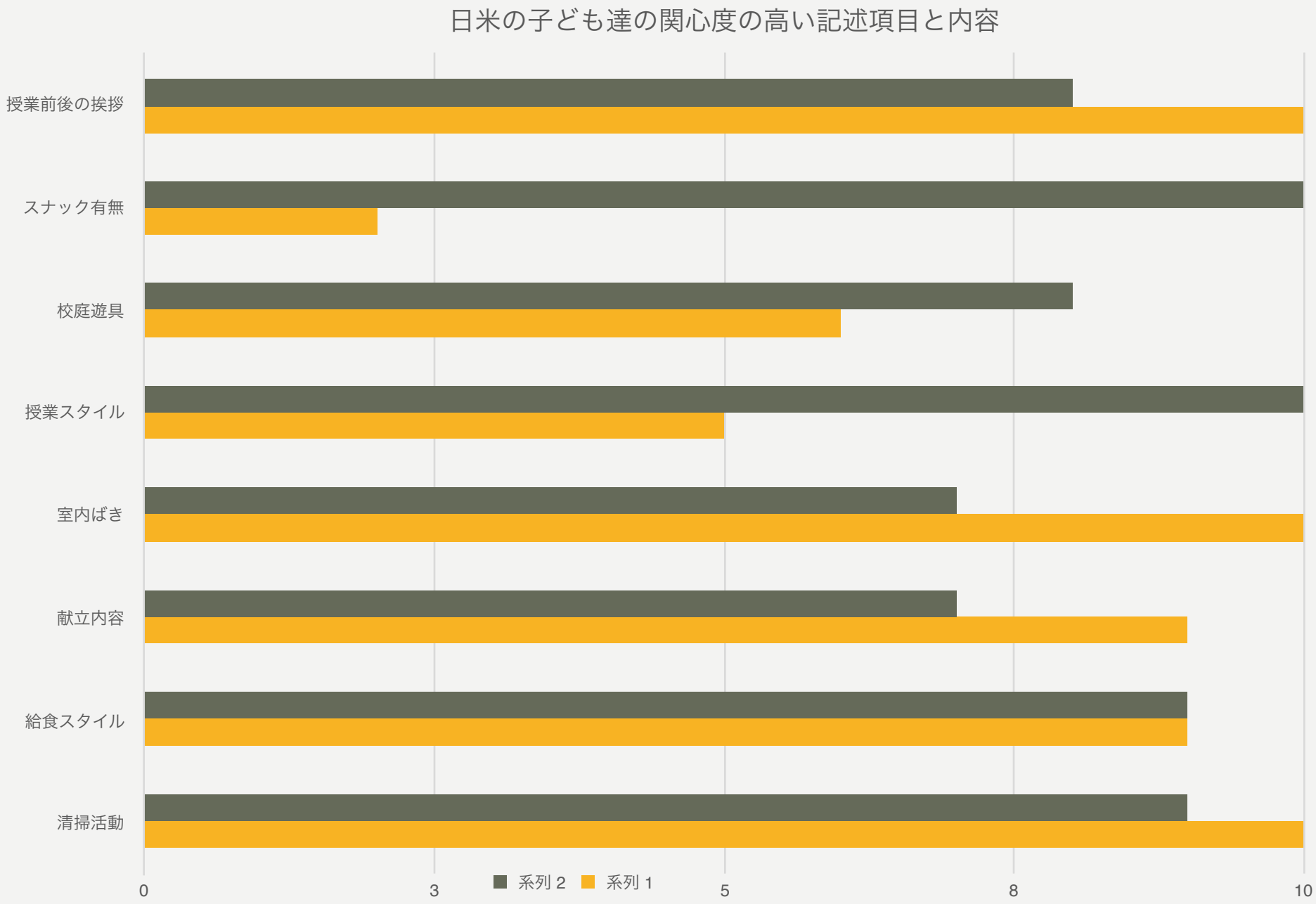
アメリカと日本の学校生活

- 二つの国の学校生活を見て、わかったことや、考えたことをまとめてみよう。
- もっと知りたいと思ったこと、体験（たいけん）してみたいと思ったことを、


日米の子ども達の関心度の高い記述項目と内容
授業前後の挨拶
スナック有無
校庭遊具
授業スタイル
室内ばき
献立内容
給食スタイル
清掃活動
0
3
5
8
10
系列 2
系列 1

3．結果

- 日米両国の児童とも「相手の国をもっと知りたい」「自国のことを伝えたい」という意欲が多く見られた。
- 米国の子ども達：「日本の学校生活の中の礼節など見習いたい」「日本的な食文化を取り入れてみたい」「清掃活動など興味深い」など
- 日本の子ども達：授業前後の挨拶や、清掃活動の持つ意味を改めて考えたり、どの様な気持ちで取り組んでいたか、学校活動の意味を再認識。
- これらの結果から，学習活動を通して，言語のみならず，海外の生活様式や文化などへの興味や関心が高まったこと。普段の学校生活の中の決まりや意味、それらに自分がどの様な気持ちで取り組んでいたか自ら省みる姿が考察された。

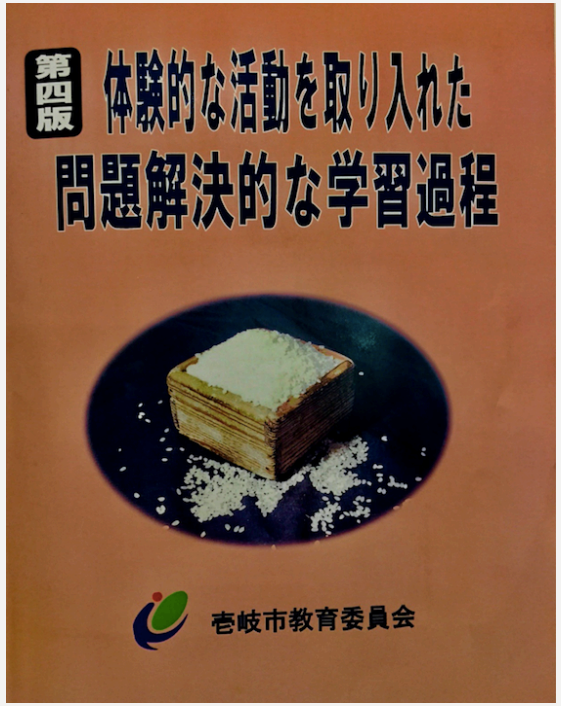

日米の子ども達の関心度の高い記述項目と内容
授業前後の挨拶
スナック有無
校庭遊具
授業スタイル
室内ばき
献立内容
給食スタイル
清掃活動
0
3
5
8
10
系列 2
系列 1

４．結論

- 日米両国とも，児童の外国語活動においては，異文化の他者とのコミュニケーションの手段には，言語の習得が必要であると同時に，相手を理解すること，相手に自分のことを知ってもらうことの必要性に気付くことができた。
- 自国の文化や慣習について説明したり，伝えたりできるようにした上で、伝えたい相手や内容などを明確にすることが、児童のコミュニケーション力の更なる向上に繋がると思われる。

四つ葉学院
ACADEMIC LAB

参考資料

長崎県壱岐市教育委員会　第四版「体験的な活動を取り入れた問題解決の学習過程」

米国NPO法人 ワシントン州日米協会AISプログラム